

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 70号

2013/10/21 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：週前半に高値を記録するも、その後、投機筋の利益確定売りで下落

①週最高：3月 LDN 市場 £1,769 / 12月 NY 市場 \$2,770 (10/15) 先週比 **LDN-£ 10/NY+ \$ 24**
②週最低：3月 LDN 市場 £1,721 / 12月 NY 市場 \$2,721 (10/18) 先週比 **LDN-£ 26/NY+ \$ 22**
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場 £ 48 (傾向↓) / NY 市場 \$49 (傾向↓)
週内建玉推移：LDN市場 238,715 枚(10/11 終了時)⇒242,728 枚 (10/17 終了時) **+4,013 枚**
NY 市場 217,238 枚(10/11 終了時)⇒221,096 枚 (10/17 終了時) **+3,858 枚**

【10月14日(月)】両市場とも反落

ニューヨーク市場のココア先物は利益確定売りに押され、反落した。12月きりは33ドル安の2713ドルで終了。

一方、ロンドン市場の3月きりも反落し、22ポンド安の1740.00ポンドで引けた。

マレーシアのココア委員会が14日発表したデータによると、同国の2013年第3四半期ココア圧砕高は前年同期比3.1%減の7万1150トンとなり、需要が減少していることが示された。

主要産地コートジボワールの港湾に着荷するココアの量は13日までの累計で6万4000トンに達し、前年同期と比べ1万5000トン増加した。

【10月15日(火)】両市場とも上昇=収穫懸念で一時2年ぶり高値

ニューヨーク市場のココア先物は、主要産地コートジボワールでのカカオ豆の収穫への懸念が尾を引き、12月きりは一時2年ぶり高値となる**2770ドル**を記録。終値は47ドル(1.7%)高の2760ドルだった。

ロンドン市場の3月きりも29ポンド(1.7%)高の**1769ポンド**で終了。一時は2011年9月30日以来の高値水準となる1774ポンドを付けた。

T&Kフューチャーズ・アンド・オプションズのマイケル・スミス氏は「雨天がコートジボワールでのカカオ豆の収穫を妨げている。今年も世界的な供給不足となる方向であり、この状況は続きそうだ」と述べた。ディーラーらは17日に発表予定の北米の第3四半期の圧砕高統計待ち。需要回復を反映し、前年同期比増加すると見込まれている。ある欧州のアナリストは前年同期比5~10%増になると予想

した。

【10月16日（水）】両市場とも反落

ニューヨーク市場のココア先物は、利益確定の売りに押されて反落し、12月きりは13ドル安の2747ドルで終了した。

あるアナリストは「(買い材料が) 乏しかったため、若干の利食い売りにつながった」と指摘した。

ロンドン市場の3月きりは5ポンド安の1764ポンドで引けた。

市場では、17日に発表される北米の第3四半期の圧砕高統計に注目が集まっている。需要の増加を受け、前年同期比12%増になったとの見方が出ている

【10月17日（木）】ニューヨークは反発＝需要増と供給逼迫に

ニューヨーク市場は反発。アジアの圧砕高統計が堅調な内容となったことで、需要の先行きに対する楽観的な見方が強まった。西アフリカの供給逼迫（ひっばく）懸念も支援材料。

12月きりは20ドル（0.7%）高の2767ドルで終了。一時2776ドルまで上昇、2011年9月以来の高値を付けた。

プライス・フューチャーズ・グループのアナリスト、ジャック・スコビル氏は「アジアの圧砕高統計とガーナの減産見込みで、ココアは世界的に十分な量を確保できないとの見通しが広がった」と述べた。

マコーリー銀行は2013～14年度のココア需給が17万3000トンの不足に陥ると予想している。

第3四半期のアジアのココア圧砕高は前年同期比12%増の16万1097トンだった。ロンドン市場は続落。3月きりは6ポンド（0.3%）安の1758ポンドで引けた。

【10月18日（金）】ニューヨーク、反落＝ロンドンも続落

ニューヨーク市場のココア先物は反落し、9営業日ぶりの安値に軟化。前日に2年ぶりの高値に急伸したことで、利益確定売りが出た。

12月きりは、46ドル（1.7%）安の2721ドルで終了。過去4カ月で20%以上も上昇しており、利益確定売りが予想された。ロンドン市場の3月きりは続落し、37ポンド（2.1%）安の1721ポンドで引けた。

2、ココアバター価格レシオ、7年ぶり高水準維持＝パウダー価格は下落(10/18)

ココアバター価格レシオは今週、2006年以来7年ぶりの高水準を維持した。ただ、アジアでの取引はチョコレート製造メーカーによる最近の購入を受けて鈍化した。チョコの販売は通常、欧州や北米など主要消費地域でクリスマス、バレンタインデー、イースター（復活祭）の際に増加する。

ロンドン・カカオ豆先物に対する13年受け渡しのココアバター価格レシオは2.80倍と、前週と変わらなかった。14年1～3月期受け渡しは2.70倍。

汎用品のココアパウダー提示価格は1トン＝1300ドルと、前週の1400ドルから下落した。1月時点では4000ドルだった。在庫が十分にあると認識しているチョコや飲料メーカーが、価格の下落

を待っているため、パウダー需要は抑制されている。カカオ豆を圧砕すると、バターとパウダーがほぼ半分ずつ生産される。ココアパウダーはケーキ、ビスケット、飲料の原料となる。バターは、チョコレート原料として、口解けの良い食感を与える。

3、7～9月のアジア・カカオ豆圧砕高、16万1,097トン＝前年を上回る—CAA(10/17)

アジア・ココア協会（CAA）は17日、2013年7～9月期のアジアのカカオ豆圧砕高が16万1097トンと、前年同期（14万3659トン）を上回ったと発表した。インドネシアの増加が要因。詳細は明らかにしていない。

4、13～14年度のカカオ豆市場、8万5000トンの供給不足＝アムトラダ予想(10/18)

カカオ豆、コーヒー豆商社を傘下に保有するアムトラダのマネジングディレクター、ハンス・ヘンドリックセン氏は17日、2013～14年度の世界のカカオ豆需給は、予想を上回る需要を背景に一段と逼迫（ひっばく）し、供給不足は8万5000トンに拡大するとの見通しを示した。前年度はごくわずかな供給不足だった。

同氏は「一部の西欧、米国市場で消費がいくらか回復するだろう」とした上で、「極東で需要が拡大すると引き続きみている」と述べた。農業商社オラム・インターナショナルは、18万5000トンの供給不足になると予想している。

5、北米の7月～9月のカカオ豆圧砕数量、前年比8.25%増＝業界団体（10/17）

北米の7月～9月第3四半期のカカオ豆圧砕数量は、前年対比で8.25%増の131,974トンになったことが米国製菓連盟の発表した統計によって判明した。

この結果は事前予想の6-10%の増加の範囲内の数字であった。

また、この数字は第2四半期の圧砕数量126,044よりも増加しており、2010年以降では最大の数量となった。

6、ナイジェリア・カカオ生産、降雨受け増加＝日照不足でかび被害も—農家見通し(10/16)

ナイジェリア・カカオ豆主産地の農家が今週明らかにしたところによると、最近始まった13～14年度のメインクropp期生産量は、十分な降雨が寄与して前年比増加する公算が大きい。ただ、日照不足により作物にかびがはびこり、豆の品質が打撃を受ける恐れがある。

12～13年度生産量の具体的な数字は明らかになっていないが、業界関係者は28万トンと、前年度（20万トン）を40%上回ったとみている。同国最大のコーヒー産地、オンド州の農家によると、地元生産者は降雨がカカオ豆の成育を促し、生産量を押し上げるとみている。

7、コートジ、カカオ豆メインクropp期生産見通し改善＝降雨と日照で—農家(10/15)

コートジボワールのカカオ豆主産地の大半では先週、大量の降雨と十分な日照に恵まれたことから、今年度（2013年10月～14年9月）の生産見通しが改善している。農家が14日、明らかにした。政府はメインクropp期（10月～翌3月）の保証農家出荷価格をキロ当たり750CFAフラン（1.55ドル）と発表している。農家は、木には既に11～12月に収穫するカカオの実がなり、土壌水分

量は好ましいとした上で、11月半ばまで毎週のように降雨が続けば、1～2月のカカオ豆のサイズが大きくなるとともに、品質が向上するだろうと述べた。

*特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております!!こちらは何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp